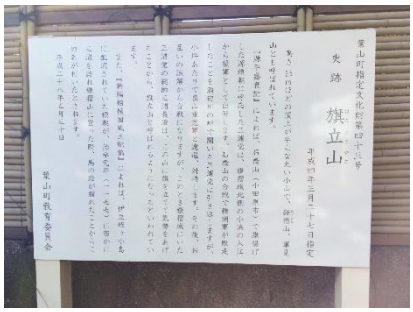
“鎌倉楽しむ会”
“令和５年如月”

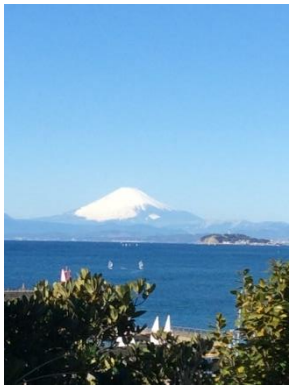
葉山マリーナ～森戸大明神～
山口蓬春記念館の散策

- ◆ 開催日　：　令和５年２月２６日（日）
- ◆ 集合場所　：　JR 逗子駅西口広場
- ◆ 集合時間　：　午前９時１５分
- ◆ 解散時間　：　午後３時３０分（JR 逗子駅）
- ◆ 参加費　：　５００円（資料代、保険料含む）
- ◆ 飲食費・交通費・拝観料などは個人負担

JR 逗子駅／バス９：３０発・鐙摺降車／旗立山／須賀神社／
／葉山マリーナ／喫茶・マーロウ／森戸海岸遊歩／森戸大明神
／裕次郎記念碑／千貫松／バス・一色海岸降車／葉山しおさい公園
／神奈川県立近代美術館／山口蓬春記念館／JR 逗子駅（解散）

1，旗立山





＊ 高さ 25M ほどの頂上が平らな丸い小山で、鐙摺山（あぶすりやま）とも呼ばれています。

『源平盛衰記』によれば。石橋山（小田原市）で旗揚げした源頼朝に呼応した三浦党は、鐙摺城北側の小浜の入江から援軍として出陣します。石橋山の合戦で頼朝軍が敗走したことを酒匂川の畔で聞いた三浦党は引き返しますが、小坪あたりで畠山重忠軍と遭遇、対峙します。その後、お互いの誤解から合戦になりますが、このとき鐙摺城にいた三浦党の総帥・三浦義澄は、この山に旗を立てて気勢を上げたことから、旗立山と呼ばれるようになったといわれています。

　また、『新編相模風土記稿』によれば、伊豆蛭ヶ小島に配流されていた頼朝が、治承元年（1177）に密かに三浦を訪れ鐙摺山に登った際、馬の鐙が摺れたことから、この名が付いたとされています。

平成二十八年五月三十日

葉山町教育委員会

2，伊東祐親入道供養塚

供養塚説明板

供養塚

＊ **葉山町指定　史跡　旗立山（鐙摺山）**

『伊東祐親入道供養塚』

伊東祐親には、娘が４人あった。長女は相模の「三浦義澄」の妻になり、次女は、はじめ「工藤祐経」に嫁いだが、のち取り帰されて「土肥遠平」再婚した。三女と四女は、まだ父のもとにいた。

源頼朝は既に十三歳のとき伊豆の国へ流されたが、伊東、北条の両人を頼みに暮らしていた。

三女は、美人の名が高かったので、頼朝はそれを知って,つれづれのなぐさめとして密かに通ううち、男の子が生まれた。頼朝はおおいに喜んで、その男子に千鶴御前という名をつけた。伊豆は、源氏にとっては祖先が往来した地であり、かって部下が住んだ国である。平家全盛の世に、雌伏している頼朝ではあったが、このたび男子が生まれたことは、流人の身に、ひとしおうれしく感じられた。千鶴御前、三歳の春伊東祐親入道は大番勤めを終わって京から伊東へ帰ってきた。

しばらくは千鶴御前の事を知らされませんでした。ある夕方、庭苑の築山で遊んでいた千鶴御前の姿を見て妻に尋ねた。頼朝が通った三女にとっては継母だったので、いい機会とばかりに、愚かしい言い方で、伊東祐親入道に頼朝と三女との間の子で、貴方の「孫御前」ですと告げた。伊東祐親入道は、大いに腹を立て、「娘が多すぎて置き場がなければ、乞食にでもやるが、いまどき、源氏の流人を婿にするなどは、まっぴらだ。もし平家にことが知られたら、なんとしよう。毒虫は頭をくだけ、かたきの子は殺してしまえ、とは古語にも言っていることだ。」

こうして郎党をよびよせ、千鶴御前を誘い出し、伊東の松川の上流の淵に柴漬けにして沈めた。しかもその三女を奪って、同じ伊豆の「江間ノ小四郎」に嫁がせた。さらにそのうえ、頼朝を夜討にしようとして、郎党どもを集めた。しかし、伊東祐親入道の二男、九朗祐清が事情を話し、ひそかに北条の方へ逃れるように進言した。

源氏の時代になってから、伊東祐親入道は、かって頼朝に不信をはたらいたかどで、ついに生け捕りになって、婿の三浦介義澄にあずけられた。三浦介義澄は、伊東祐親入道の長女を、妻にしていたのである。

前の罪を逃れがたく、伊東祐親入道は、三浦の鐙摺というところで、首をはねられた。　（曽我物語より）

3、須賀神社

浪に神兎

旗立山の隣が須賀神社。須佐之男命が御祭神。欄間に平成５年の干支―「神兎」が奉っています。ご利益あります。

4，葉山マリーナ

葉山マリーナ
創業者
鈴木三郎助翁

葉山マリーナ
と
白雪の富士山

＊ 葉山は、味の素の創業者・鈴木三郎助氏の生家のあった土地に、昭和３９年（1964）、東京オリンピック開催に合わせて、セーリング競技のサブマリーナとして建設した。競技選手や関係者の宿泊施設として利用された。

＊ オリンピック後は、リゾートホテルとして運営を開始、リゾート施設を充実させ多くの来場者を集めた。

＊ 昭和５８年（1983）には、現在の私設に建て替えられ、ヨットハーバーに重点をおいた総合複合施設として再スタート、ヨット愛好家の憧れのマリーナとしてブランド価値を築き上げている

＊今回の葉山を下調べしていて驚いたことは、「葉山マリーナ」は味の素の創業者の鈴木三郎助氏が建設されたことには、まったく思いもつかないことでビックリするやら驚くやら、そして、その時、京急電鉄の社長、会長を務めていたということも分かりました。「味の素グループの１００年史」の「序章　生産開始の道」を読んでみました。二代・三郎助の母ナカさんと妻のテルさんが、葉山の浜で採取した海藻を煮詰めてヨードを製造し、それをヨード事業として発展させていったのが、今日の「味の素株式会社」基礎となっていったという大変な努力の物語となっていました。

話しは横道に逸れましたが、お時間のある時には読まれてはと思っています。

5，マーロウの「プリン」

＊閑話休題
葉山マリーナの中にある名店「マーロウ」
店内からのロケーション抜群！　お天気なら近くに「江ノ島」蒼い海の彼方に伊豆半島、そして霊峰富士がバッチリ。店内へは入店券を引き出してのご案内！混みあうと思います。お早目の入店をお勧め！

6，森戸海岸の遊歩

オゾンいっぱいの約１キロメートルの楽しい散策を！！！

7，森戸大明神

御祭神
大山祇命
（おおやまつみのみこと）
事代主神
（ことしろぬしのみこと）

＊ 今から約８５０年前の永暦元年（1160)、平治の乱に敗れ伊豆に流された源頼朝公は、三嶋明神（現在の静岡県・三嶋大社）を深く信仰し源氏の再興を祈願しました。
＊ 治承４年（1180)、そのご加護により旗揚げに成功し天下を治めた頼朝公は、鎌倉に拠るとすぐさま信仰する三嶋明神の御分霊を、鎌倉に近いこの葉山の聖地に勧請し、長く謝恩の誠をささげたと伝えられています。
＊ 「吾妻鏡」によれば、歴代将軍自らこの地を訪れ、流鏑馬、笠懸、相撲などの武事を行ったといいます。厄災が生ずると加持祈祷が行われ、源氏はもとより鎌倉要人からも篤い信仰があり、特に三浦党の祈願所でもありました。
＊ また、北条、足利諸氏の崇敬も篤く、天正１９年（1591）には社領７石が寄進されました。
＊ 延宝２年（1674）に徳川光圀公、明治２５年（1892）には英照皇太后（孝明天皇の皇后）陛下のご参拝を仰ぎ、現在も葉山の総鎮守として、町内はもとより近郷近在より多くの参拝者が訪れます。（森戸大明神の御由緒より）

8、千貫松

＊森戸大明神の裏手には、海を見下ろす岩山には見事な松が凛として生えています。

この松の伝説！
元暦元年（1184）源頼朝は三浦党の衣笠城を訪ねる途次、休息のため立ち寄った森戸で、この見事な松を見て、「如何にも見事な松だ」と褒めたところ、出迎えた和田義盛が「我々はこれを、千貫の価値ありて千貫の松と呼んでいます」と答えたことから、この松は「千貫松」と呼ばれるようになったとのことです。

9，裕次郎の記念碑

＊ 石原裕次郎は葉山で青春時代を過ごし、この地をこよなく愛したと言われています。
＊ 左の画像は富士を背にした「裕次郎記念碑」です。記念碑には、兄の慎太郎が裕次郎を偲んで書いた自筆の詩が石碑に刻まれています。

『夢はとおく　白い浪にのって　消えていく消えていく　水のかなたに　太陽の季節に　実る狂った果実達の　先達　石原裕次郎を　偲んで』

平成元年７月１７日　石原慎太郎

＊そして、この記念碑の沖合には、裕次郎灯台と呼ばれる葉山灯台もあり、美しい海が広がっている。

10，神奈川県立近代美術館

＊ 神奈川県立近代美術館　葉山館
（旧高松宮別邸跡）
葉山館は、神奈川県立近代美術館の３番目の建物として平成１５年（2003）１０月に開館しました。天上の高さや照明環境に変化をつけた展示室のほか、資料の収集と情報の発信拠点を目指す美術図書館、視聴覚設備のある講堂。保存技術の粋を集めた収蔵庫など、多様な施設を備えた美術館となっています。

＊美術館併設の
　レストラン　オランジュブルーの景観です。
席数は少なく、祝休日は混みあうと思いますが、ここでの昼食はいかがか？とも考えています。
（例：シーフードカレーセット￥2，800　）
また、海を眺め爽やかな風の中の“おにぎり”も美味しいのではとも思っています。

11，葉山　しおさい公園

＊ 葉山御用邸は、侍医のドイツ人医師エルヴィン・フォン・ベルツ博士の進言もあり、明治２７年（1874）に、療養中であった英照皇太后（孝明天皇の女御）の保養地として造営された。
＊ 大正８年（1919）には葉山御用邸の北側に接する場所にあった岩倉具定侯爵、金子堅太郎伯爵、井上毅子爵の各別荘地を買い上げて、葉山御用邸付属部が造られた。
＊ 大正１５年（1926）１２月２５日葉山御用邸付属部で病気療養中であった大正天皇は、皇太子や生母・柳原愛子らに見守られながら崩御されました。
＊ 直ちに、葉山御用邸付属部にて皇位継承の儀式である「剣璽渡御の儀」が行われ、昭和天皇がご即位されました。昭和という時代は葉山から始まった。
（昭和発祥の地）
＊ 昭和５９年（1984）に葉山御用邸付属部は葉山町に無償で貸与され、昭和６２年「葉山しおさい公園」として開園となりました。面積；約５．５００坪
＊ 三ヶ岡山を借景とした日本庭園には、流れ落ちる「噴井（ふけい）の滝」があり、海岸側にある黒松林から富士山や伊豆半島、大島などが一望できます。

12，山口蓬春記念館

＊ 山口蓬春記念館について　　（山口蓬春記念館 HP より）

＊ 山口蓬春（1893-1971）は東京美術学校（現・東京藝術大学）日本画科に学びました。古典による伝統的日本画を探求する一方で、西洋画の技法を取り入れる等、従来にない数々の試みを実践し、独自の新日本画の世界を築きました。

＊ 日展を中心に活躍し、日本画の進展に大いに貢献した蓬春は。昭和４０年には文化勲章を受賞、皇居新宮殿杉戸絵《楓》に代表される数々の業績を残しています。

＊ また、葉山に転居して以来、数々の名作を生みだした画室は蓬春とは東京藝術大学で同窓であった建築家・吉田五十八氏による設計です。当時のままの状態で保存し、四季折々の草木が楽しめる庭とともに公開しています。

＊ 昭和４６年５月 31 日、戦後を過ごした葉山の地で７７年の生涯を閉じました。

＊ 平成２年、山口家より土地、建物及び所蔵作品の寄贈を受けた財団法人ＪＲ東海生涯学習財団（現・公益財団法人ＪＲ東海生涯学習財団）では、その偉業を永く後世に伝えていくことを目的として、平成３年１０月１５日、山口蓬春記念館を開館しました。

＊ 当記念館では、蓬春の本画をはじめ、研鑽の偲ばれる素描、模写などを公開しています。その他にも、常に古今東西の美術に対する理解、研究を怠ることのなかった蓬春が、長年にわたり収集した美術品の数々も、随時展示替えを行いながら公開しています。

完

memo